

# 輝 SONODA SPORTS PRESS

経験値教育。  
**園田学園女子大学**  
 園田学園女子大学短期大学部  
 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1  
 [学部・学科]  
 ●人間健康学部 / 総合健康学科 ●人間教育学部 / 児童教育学科  
 人間看護学科 ●短期大学部 / 生活文化学科  
 食物栄養学科 幼児教育学科

お問い合わせ先 スポーツ振興センター  
 TEL 06-6429-9137  
 FAX 06-6429-9116  
 URL http://www.sonoda-u.ac.jp/sports/index.html

## 関西学生リーグ14季連続



### いけるぞ! インカレ2連覇

**大会成績**

◆平成 29 年度春季関西学生リーグ戦 (女子1部予選リーグ)  
 園田学園女大○5-2 奈良学園大・奈良文化女短大  
 ○6-0 同志社大  
 ○7-0 武庫川女大  
 ○12-0 天理大

(女子1部2次リーグ)  
 園田学園女大○4-1 大阪青山大  
 ○6-1 大阪国際大  
 ○12-0 神戸親和女大  
 ○2-1 大阪大谷大

(個人賞)  
 最優秀打撃賞: 石川恭子 0.562  
 盗塁賞: 石川4本  
 ホームラン賞: 桃山奈々 2本  
 ベストプレイ賞: 桃山奈々

◆兵庫県知事杯兼全日本総合女子選手権兵庫県大会  
 園田学園女大○9-1 神戸親和女大  
 ○2-0 武庫川女大  
 (全日本総合女子選手権近畿予選進出)

**戦いながら成長するチーム**

新チームが迎えるシーズン最初の公式戦。さすがに緊張や連続制覇記録が懸かったプレッシャーがあり、初戦の奈良学園大・奈良文化女短大戦は8回タイブレークカードで決着だった。

「これからの練習方法を考える一戦となったと同時に、このチームの伸びしろが期待できる試合でした」と木田京子監督。2戦目以降のプレーを振り返ると、一戦一戦、戦

ソフトボールの第49回春季関西学生リーグ戦女子1部は園田学園女子大学が開幕から全勝で14季連続リーグ制覇を果たした。コールド勝ちあり、タイブレークゲームあり、逆転勝ちありと、総力を挙げてタイトルを守った。これを自信に9月の全日本大学選手権(インカレ)／広島県)で2連覇を目指す。



インカレ2連覇が懸かる園田。今年も団結力は高い。



### 世界女子ジュニア選手権で世界二奪還へ

<b>服部洋代</b> (捕手) 総合健康学科2年	<b>下村歩実</b> (野手) 総合健康学科1年	<b>三原千空</b> (投手) 総合健康学科1年	<b>下山絵理</b> (野手) 総合健康学科1年
全力で勝利に貢献したい	強豪国との対戦にワクワク	「世界一」で恩返し	全力プレーで世界に挑む

「日本代表に選出されたからには自分のやるべきことをしっかりとやらせよう決意しています。一戦一戦に全力を注ぎ、世界一を取ることを目標。U19日本代表で戦えることが楽しみです」

「海外のチームとソフトボールができる機会にワクワクしています。慣れない環境でプレーすることも多い経験になるはず。日本代表の自覚を持ち、人に勇気を与える走塁、守備、バティングをしたいと思います」

「世界に挑戦できることに喜びを感じています。どの相手もハイレベルですが、勝つためにしっかり準備し、チームに貢献するプレーを心掛けます。世界一になり、支えてくださった方々に恩返ししたいと思います」

「日本代表に選ばれ、とても光栄です。日本では無い環境で、世界との勝負に早く対応するための準備をし、世界一を奪還したいです。チームに貢献できるよ、責任ある行動や全力プレーを貴きたいと思います」

### U19日本代表に園田から4人選出

2018年世界選手権2020年東京五輪と日本でビッグイベントが控えるソフトボール。今年も世界女子ジュニア選手権が米国フロリダ州で開催され(7月24日～30日)、その日本代表を決める選考会(2016年12月に臨んだ72人から選ばれた17人のうち、4人が園田学園女子大学勢。前回2015年大会は決勝で米国に敗れており、世界一奪還が目標となる。木田京子監督もヘッドコーチとして代表チームに帯同する。



主戦として、主将としてチームを引っ張る原。

いながらチームが成長していったリーグ戦だった。木田監督が「何事にも必死のパッチ。ソフトボールに対する情熱はすごい」と表現する今季のチームは、主将の原奈々(児童教育学科4年)、新戦力の三原千空(総合健康学科1年)らの投手陣を、昨年優勝したインカレの決勝で先発マスクをかぶった桃山奈々(同3年)や長打力のある服部洋代(同2年)の捕手陣、リーグ戦首位打者の石川恭子(同3年)ら打撃陣がもり立

**V懸けた最終戦で逆転勝利**

順当に白星を挙げる園田学園女子大学だが、他チームも打倒園田を掲げ、全力でぶつかってくる。特に、原一服部のバッテリーで迎えた大阪大谷大との最終戦は、リーグ優勝を懸けた緊迫の展開となった。

両チームのエースが持ち味を発揮し、3回を終えてゼロ行進。試合が動いたのは4回表の大阪大谷大の攻撃。適時2塁打



成長株のひとつに挙げられる加藤。



さらなる増強に意欲的だ。木田監督もリーグ戦を「チームの方向性が見え始めた指標となりました。向けた指標となりました。加藤愛夢(総合健康学科4年)や1年生も活躍し、明るい成果もありました」と総括した。

協調と尊重、そして心技体伴ったチームづくりを目指すソフトボール部。インカレ2連覇へ。園田学園女子大学の進撃が続く。



バレーボール部

関西大学女子春季リーグ2部3位

# あきらめないバレーを発揮

バレーボールの関西大学女子春季リーグ2部の園田学園女子大学は1部復帰をめざして、初戦から4連勝と波に乗り、2部3位で1部入れ替え戦に進出。惜しくも1-3で敗れたが、最後まであきらめないバレーを貫いた。

## 勝利引き寄せた集中力

昨年の秋季リーグで1部入れ替え戦に進めなかった園田学園女子大学は、この春季リーグで1部復帰を固く誓って試合に挑んだ。「絶対1部昇格」の思いはプレーにも表れた。初戦の同志社大から、流通科学大、兵庫大、関西外大まで、4戦連続でストレート勝ちの快進撃を見せた。第5戦は力のある京産

大。園田学園女子大学は4連勝の勢いに乗って第1セットを25-18で奪った。このまま攻め続けたかったが、相手の攻撃力が勝り、逆転負けを喫した。気持ちを立て直して迎えた第6戦は天理大と対戦。昨年の秋季リーグでは0-3で完敗している。リベンジの思いを込めて、第1セットから攻撃的なバレーを展開。25-23でセットを奪った。第2・3セットを失った



が第4セットは26-24で奪った。最終セットも粘りを見せたものの、13-15で落とし、惜敗した。1部との入れ替え戦に進出するには、4勝2敗同士の大阪大谷大との最終戦に勝たなくてはならない。

その大事な一戦。お互いにサーブ一本、レシーブ一本、スパイク一本、譲らない熱戦に。園田学園女子大学は第1セットを24-26で落としたが、第2セットを29-27で制した。

第3セットも27-25とラリー戦を制し、第4セットは25-13で打ち勝った。園田学園女子大学の集中力に勝利の女神が微笑んだ。

## 1部昇格へ挑戦は続く

全員でつかんだ1部昇格へのチャンス。1部10位の大阪国際大との入れ替え戦で、園田学園女子大学は第1セットを奪った。しかし第2、3セットに攻めきれない。第4セットも相手を追い込んだが、あと一歩で力尽きた。

2部残留となった園田学園女子大学。リーグ前に立てた誓いは達成できなかったが、戦いの内容を振り返



## バスケットボール部

# 見せ場つくるも初戦で苦杯

## 全関西女子学生選手権

バスケットボールの全関西女子学生選手権は4月15日に開幕し、Bブロックにシードされた園田学園女子大学は4回戦から登場。昨年5位を上回る成績を得意に込んだが、天理大の勢いに屈し、初戦で涙をのんだ。

先遣チームの5位を越えようと思っした園田学園女子大学。相手の天理大は1



チーム一丸で勝利をめざす

部リーグの強豪で3回戦を113-35で圧勝して勢いに乗っていた。

第1ピリオドで11点差を付けられたが、第2ピリオドに奮起。16-7と攻め込んだ。しかし第3、第4ピリオドは反撃の機会を抑え込まれ、突き放された。シュートの決定力やディフェンス面など、攻守で課題が浮き彫りになり、副将の高島里紗（食物栄養学科4年）は「自分たちのプレーができないまま負けてしまい、悔しさと課題が残る試合でし



シュートする井上和香那（総合健康学科1年）

た」と反省を込めて話す。その改善なくして、次の目標へは進めない。

それはリーグ戦1部昇格。東美緒主将（総合健康学科4年）は「9月に始まる関西リーグはすべてを出し切る大会。2部で全勝優勝し、入れ替え戦に勝利して1部昇格をめざします」と決意を新たにしていた。

## 大会成績

◆全関西女子学生選手権  
園田学園女大  
▽4回戦

47	16	10
15	6	10
23	15	7
66		

天理大

## 部員が増え、ムード上々 全日本大学8強進出目標

と、あきらめずに攻め続けた軌跡が見える。この姿勢を貫けば、秋季リーグでチャンスはまた巡ってくるだろう。

今年は、新入生8人を新たに迎えることができ、初心者から経験者までキャリアはさまざまですが、このメンバーが一丸となつて、夏の全日本大学女子野球選手権大会ではベスト8以上を目標にし、頑張っています。



## 大会成績

◆関西大学女子春季リーグ戦(2部)  
園田学園女大 ○3-0 同志社大  
○3-0 流通科学大  
○3-0 兵庫大  
○3-0 関西外大  
●1-3 京産大  
●2-3 天理大  
○3-1 大阪大谷大  
○3-1 大阪国際大  
●1-3 園田学園女大

（1部2部入れ替え戦）

まずは5月中旬に開幕する関西大学女子春季リーグで、結果を出していきたいと考えています。部員が増えたことで、レギュラー争いも激化し、気を抜いていられない日々です。レギュラー争いはお互いの刺激となり、意識も高まることから個々の能力アップが期待されます。

また、お互いに声を出し合うことで練習を活性化させ、練習からチームのムードを上げていくことを課題としています。4年生にとっては最後のシーズン。試合を楽しみながらプレーし、その姿を後輩に示すことでリードしていきたいと思っています。各自が目標に向かい、自覚を持ってグラウンドに立ちたいと思います。



## ソフトボール部



原奈々  
児童教育学科4年

「チーム目標はインカレ2連覇です。そのために一人ひとりがプレーだけでなく、学校生活や個々の姿勢まですべてに気を配ることが求められます。どんな展開のゲームでも、すべて勝つ！にこだわって、チームとしてスキルUPをめざします。個人的にもインカレに向けて「自分を越える」を掲げています」

## テニス部



木村優布子  
総合健康学科4年

「今年度も全日本大学対抗王座決定試合優勝が目標です。そのためには関西制覇が絶対条件です。全員が強い気持ちを持ち、日本一をめざす言葉を心掛けることが大切だと感じています。一人ひとりのプレー次第でチーム全体が勢いに乗るので、一丸となって全力で勝利をつかみ取ります」

## バレーボール部



上村あすか  
総合健康学科4年

「誰が試合に出ても勝てるチームになること、礼儀などを日々見直し、誰からも応援されるチームになることが目標です。1日でも多くこのメンバーでバレーができるよう、どの試合も勝つことだけを考へ、日々の練習に取り組むようにしています。31人全員で切磋琢磨してチーム力を上げていきます」

## バスケットボール部



東美緒  
総合健康学科4年

「全員が秋季リーグ2部全勝優勝という同じ目標に向かって、日々の練習に取り組んでいます。そのためにはコツコツと積み重ねることが重要だと思います。9月に始まるリーグではやってきたことをすべて出し切り、2部全勝優勝と1部昇格、インカレ出場を果たすため、私たちは前に進みます」

## 剣道部



吉山茜  
総合健康学科4年

「チームとして自主性を持ち、実戦を想定した稽古が必要だと感じています。全員が仲間でありライバルであることを意識し、競い合う心で取り組みます。主将としてチームを引っ張りながら、常にレギュラーとして戦うことをめざし、生活、剣道両面において見本になるような行動を心掛けます」

## 陸上競技部



内田千香子  
総合健康学科4年

「関西インカレではチームの団結力を感じました。陸上競技は自己記録との戦いでもあるので、インカレに出場した選手だけでなく、全員が自己ベストを更新することがチームの目標です。そうした雰囲気の中で練習から競い合い、勝ちにこだわり、西日本インカレや日本インカレで昨年よりも多い入賞者を出します」

# 主将の決意

# 関西学生対校女子 陸上 総合4位



関西インカレ400mリレー&1600mリレーのメンバー、中島(前列左)は「ずっと目標にしていた園田記録を更新できました。次は44秒合を狙っています!」

## 個人もリレーも全力発揮

陸上競技の関西学生対校選手権(関西インカレ)で園田学園女子大学はのべ16の入賞を果たし、3年連続して女子総合4位の成績をあげた。優勝種目こそ出なかったが、400mの稲岡真由(食物栄養学科3年)、棒高跳の那須真由(総合健康学科3年)、三段跳の宮畑さくら(同4年)が個人2位入賞するなど、大会4日間を通じて、園田の存在感がキラリと光った。

### 稲岡が400mで躍進

関西インカレが迫り、個人もチームも急速に仕上がっていった陸上競技部。400m決勝で稲岡がマークした54秒65は、昨年の日本ランキングに照らせば、大学生で6番目に相当する好記録。日本選手権の参加標準記録を突破し、「日本選手権でも自己記録で走りたい。日本学生は6位以内が目標」と自信をつけた。



稲岡400m2位



宮畑三段跳2位



中島4種目入賞

年)が軽快な走り。100m7位、100mハードル3位に入賞した。得意のハードルで頂点を逃したことは悔しいが、リレーでも2種目入賞に貢献した。跳躍では宮畑が奮起。昨年の日本学生対校で5位入賞の実績からすると、2位では物足りないかもしれない。

### 主要大会上位成績

- ◆兵庫学生女子選手権(3位以内)
  - ▽100m③鈴木12秒65▽100mH①中島14秒83▽4×100mリレー②園田B(大橋、大橋、吉村、大池)49秒29③園田A(森田、稲岡、鈴木、浜野)50秒04▽砲丸投②内田13m06▽円盤投①内田36m94②西矢36m16▽やり投②神田42m76
- ◆兵庫リレーカーニバル
  - ▽4×100mリレー②園田(大橋、大橋、中島、46秒95)▽棒高跳①那須3m91④廣岡3m40▽円盤投④西矢38m02
- ◆関西学生対校選手権
  - ▽100m⑦中島12秒10▽400m②稲岡54秒65▽100mH③中島13秒88▽4×100mリレー②園田(園田、近藤、稲岡、鈴木、中島)45秒66▽4×400mリレー⑤園田(園田、堀出、中島、小澤、稲岡)3分48秒38▽棒高跳②那須3m70④竹上3m60▽走幅跳②浦山5m81⑧大浦5m81▽三段跳②宮畑12m49⑦宇田12m12▽砲丸投④内田13m54▽円盤投⑦内田39m74▽ハンマー投⑥三宅49m76⑦好田49m69▽7種競技⑤菅見4620点▽女子総合4位

### 那須が学生歴代6位

棒高跳で関西インカレ3連覇がかかっていた那須は、5月3日に学生歴代6位となる4m01に成功していた。3連覇をめざしていた。3連覇をめざして、3m70をクリアしたが、次の3m80で失敗。日本選手権や日本学生対校で輝くことを期待したい。

ハンマー投は4年の三宅れい(総合健康学科)と1年の好田萌加(児童教育学科)が6位、7位。三宅が49m76の自己ベストで上級生の意地を見せた。

七種競技は園田勢が毎年連続して入賞している種目。今季は菅見千尋(同4年)が4620点の自己ベスト

# 剣道部 兵庫学生で岩崎が個人3位

### 厳しい稽古で全日本学生8強突破

今季最初の主要公式戦となった兵庫学生大会では、岩崎比那(総合健康学科3年)がベスト4に進出して3位に入賞。明るいニュースを剣道部にもたらした。個人戦で争う関西女子学生選手権(5月7日)には、



園田学園女子大学体育会剣道部

全日本学生選手権の出場権(ベスト16以上)をめざして6選手が出場した。主将の吉山茜(総合健康学科4年)、兵庫学生3位の岩崎、峯崎裕子(同4年)、菟川未紗(児童教育学科1年)の4人が3回戦に進んだが、勝ったのは吉山ひとり。その吉山もベスト16目の4回戦で健闘かなわず敗退した。

吉山は「これまでの稽古の成果が発揮できず、不甲斐ない結果でした。もっと厳しい稽古が必要」と、悔しがるコメントの中に決意を込めた。

一昨年の全日本学生優勝大会(団体戦)でベスト8に進出した剣道部。各学年で連携が取れ、先輩を尊敬し、同期を信頼し、後輩を思いやるが伝統だ。

石野清美監督は「今年のチームは、器用さはないが、明るく前向きに努力する姿

### 大会上位成績

- ◆兵庫学生大会
  - 個人戦3位 岩崎
- ◆関西女子学生選手権
  - ①回戦・勝者)
    - 吉山、峯崎、岩崎、菟川
  - ②回戦)
    - 吉山 ○ 山田(天体大)
    - 峯崎 ○ 不戦勝
    - 岩崎 ○ 大村(京葉大)
    - 菟川 ○ 松田(京教大)
    - ③回戦)
      - 吉山 ○ 田首(大産大)
      - 峯崎 ○ 水越(関学大)
      - 岩崎 ○ 出口(大産大)
      - 菟川 ○ 玉城(近畿大)
      - ④回戦)
        - 吉山 ○ 中川(甲南大)



那須棒高跳2位

スコアで5位と健闘した。主将として「全員、自己ベスト」のチームづくりをめざしている内田千香子(総合健康学科4年)は砲丸投で13m54を投げて4位。昨年の関西インカレで投げた14m12を早期に更新したい。

今後、7月の西日本インカレ、9月の日本インカレへ、陸上競技部一丸で加速していく。

## 今年こそ関西1部へ ラクロス部



人が挑戦者の気持ちで日々活動する、そんな決意を込めています。私たちの部は人数が少ないですが、一人一人とのコミュニケーションがしっかりと取れていることが強みです。昨年はあと一步のところまで1部昇格できず、悔しい思いを

ラクロスは、現在関西学生リーグ2部に所属しています。1部昇格を目指して、スローガンは「初志貫徹(挑戦者)」です。「初めに志したことを突き通す」「一人一



## 2017年度クラブ新入生 私たちは、SONODAで心・技・体を磨きます!

- 【ソフトボール部】
  - 大谷 朋世(鳥取城北高校・鳥取)
  - 山下 絵理(高知丸の内高校・高知)
  - 西野 世良(高知丸の内高校・高知)
  - 秋豆 朱音(津商業高校・三重)
  - 三原 千空(須磨ノ浦女子高校・兵庫)
  - 横谷 瑞希(園田学園高校・兵庫)
  - 山岡 由菜(高松南高校・香川)
  - 山口 涼香(香ヶ丘リベルテ高校・大阪)
  - 武井 麻優(とわの森三愛高校・北海道)
  - 下村 歩実(東海学園高校・愛知)
  - 三浦 真子(一関第一高校・岩手)
- 【テニス部】
  - 相本 夏樹(園田学園高校・兵庫)
  - 鈴木 里奈(園田学園高校・兵庫)
  - 吉井梨花子(園田学園高校・兵庫)
  - 高垣 里実(夙川学院高校・兵庫)
  - 西野さくら(相生学院高校・兵庫)
  - 永岡 睦美(大商学園高校・大阪)
  - 山口あかり(出雲西高校・島根)
- 【バスケットボール部】
  - 石丸 愛華(芦屋学園高校・兵庫)
  - 新名 美里(中村学園女子高校・福岡)
- 【バレーボール部】
  - 中塚 理沙(金蘭会高校・大阪)
  - 川釣 真緒(氷上高校・兵庫)
  - 三木 萌菜(日本学園高校・兵庫)
  - 畑岡みなみ(姫路南高校・兵庫)
  - 西浦 萌(四條畷学園高校・大阪)
  - 濱田 藍里(東海大仰星高校・大阪)
  - 川口 萌佑(真面目自由学園高校・大阪)
  - 床並結衣菜(金光大阪高校・大阪)
  - 飯屋友紀子(開智高校・和歌山)
- 【剣道部】
  - 菟川 未紗(興譲館高校・岡山)
  - 奥平 桜(興譲館高校・岡山)
  - 瀧井日都美(好文学園女子高校・大阪)
  - 上山ゆうら(福岡第一高校・福岡)
  - 廣崎 真帆(英真学園高校・大阪)
  - 佐々木麻衣(英真学園高校・大阪)
  - 青木 優波(英真学園高校・大阪)
  - 山下 颯希(甲子園学院高校・兵庫)
- 【陸上競技部】
  - 春本 杏莉(姫路商業高校・兵庫)
  - 廣岡 玲美(明石商業高校・兵庫)
  - 太田梨々奈(県立西宮高校・兵庫)
  - 浦島 美憂(京都海洋高校・京都)
  - 西森 友梨(夙川学院高校・兵庫)
  - 大江 里香(夙川学院高校・兵庫)
  - 安達 眞咲(京都橋高校・京都)
  - 直橋(枚方高校・大阪)
  - 平田 未来(神戸商業高校・兵庫)
  - 藤原 沙耶(夙川学院高校・兵庫)
  - 尾崎 サキ(聖カトリック学園高校・愛媛)
  - 田中 伊織(市立西宮高校・京都)
  - 岩木 好田 理菜(咲くやこの花高校・大阪)
  - 萌加(姫路商業高校・兵庫)
- 後藤 奈緒(加古川北高校・兵庫)
- 河下 莉子(園田学園高校・兵庫)
- 須河 果林(西城陽高校・京都)
- 小西 菜奈(岡山東商業高校・岡山)
- 横田 実優(塔南高校・京都)
- 栗谷 華恋(夙川学院高校・兵庫)
- 富田 瑞希(園田学園高校・兵庫)
- 山本 葵(園田学園高校・兵庫)
- 江島 美苗(済美高校・岐阜)
- 川崎 聖代(西宮甲山高校・兵庫)
- 竹下 美月(加古川西高校・兵庫)
- 坪内明日香(香住高校・兵庫)
- 中村みなみ(金蘭会高校・大阪)
- 森清 優菜(大阪桐蔭高校・大阪)
- 大村 美空(汎愛高校・大阪)

勝利をめざし、誰からも応援される園田アスリートになろう!

It's fresh 活動レポート

全力で笑顔を届けるスポーツです!

私たちの主な活動はアメリカンフットボールチームの専属チア、地域のイベント出演、学祭(けやき祭)の出演、大会の出場などです。イベントや大会で見ている多くのお客様に笑顔や元気を届けるために日々練習をしています。

秋は活動の機会が盛りだくさん。アメリカンフットボールのシーズン開幕や、けやき祭に向けて今から体力づくりをしっかりと行い、よりよいパフォーマンスができるようにチーム全体で取り組んでいます。

チーム目標は「どんな時でも、どんな場面でも全力で演技をする。」です。チアリーディングはしんどい場面でも、常に全力で笑顔を届けるスポーツです。人との繋がりを大切にしながら、一人でも多くの人に笑顔を届けられるよう、一丸となって練習に励んでいます。

# 関西学生春季トーナメント

## 渡邊・小池組が初優勝

### 園田ダブルス4年ぶり栄冠

#### 抜群コンビネーション 全試合ストレート勝ち

テニスの関西学生春季トーナメントは5月21-28日に行われ、女子ダブルスで園田学園女子大学の渡邊はるか(総合健康学科3年)・小池颯紀(同2年)組が全試合で1セットも奪われない完勝劇で初優勝を飾った。園田学園女子大学のダブルス制覇は4年ぶり。シングルスでは渡邊がベスト4、小池がベスト8の結果を残した。



渡邊はるか(総合健康学科3年)



息の合ったテニスを展開した渡邊・小池組



小池颯紀(総合健康学科2年)

#### シングルスは4強が最高

園田学園女子大学にとって、今春卒業した加治遥(プロ)がシングルスで4連覇した後の今大会は、後輩たちの真価が問われる大会だった。期待されたのはシングルの小池。3月の関西学生新進でシングルス・ダブルス2冠に輝き、5月の関西オープンでもシングルスで頂点に立った。その実力を発揮して、3回戦まで危なげなく勝利した。

#### 快進撃へア

しかし、初めて進出した春季トーナメントの準々決勝で苦杯。緊張からか、精彩を欠き、相手に押されてしまった。初戦で第1シードを破った渡邊は、準々決勝で快勝し、準決勝も第1セットを奪ったが、反撃にあって逆転黒星。悔しい結果に終わった。

だが、渡邊と小池はダブルスで快進撃。全試合で相手ペアにつけ込ませず、失ったセットはゼロ。ゲームカウントも全セットで3以上取られず、文字通り、完勝で頂点まで駆け上がった。お互いに個性を生かしあい、カバーしあって、相手の特徴を読んで強気で攻め続けたことが、最



ダブルスベスト8の太石(右)・伊藤組

#### ダブルス8強に計3組

渡邊、小池のほか、シングルスでは5選手が初戦に勝利。そのなかで川本桃子(同4年)が3回戦まで進出した。ダブルスでは大石歩美(食物栄養学科4年)・伊藤優子(総合健康学科3年)組と、木村・田中虹河(同4年)がベスト8に勝ち上がった。



シングルスで健闘した川本(左)と岡のペア

テニス部の最大の目標は、シングルス3試合、ダブルス2試合の「団体戦」で争う秋の関西大学対抗リーグと全日本大学対抗王座決定試合を制すること。春季トーナメントは満点ではなかったかもしれないが、4年ぶりのダブルス制覇で弾みがついたのも確か。この勢いを止めず、8月の全日本学生選手権(岐阜)でも、1勝1勝を積み重ねていく。

#### 大会成績

◆関西学生新進トーナメント(3月)	◆関西学生春季トーナメント
準々決勝 小池 ○ (6-4) 高本 (関学大) 小池 ○ (6-2) 前田 (関学大) 小池 ○ (6-3) 前田 (関学大) 小池 ○ (6-1) 樋口 (大阪大) 小池 ○ (6-1) 樋口 (大阪大) 小池 ○ (6-1) 樋口 (大阪大) 小池 ○ (6-1) 樋口 (大阪大)	準々決勝 木村・田中 ● (7-6) 大野・越野 (関西大) 小池 ○ (6-2) 伊藤 (立命館大) 渡邊 ○ (6-2) 大塚 小池 ● (4-6) 越野 (関西大) 小池 ○ (6-1) 伊藤 (立命館大) 渡邊 ○ (6-2) 大塚 小池 ● (4-6) 越野 (関西大)
◆関西オープン 準々決勝以上 小池 ○ (7-5) 岸上 小池 ○ (7-6) 姫路大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大	◆関西オープン 準々決勝以上 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大 小池 ○ (6-3) 石石 日本大

## 第2グラウンドをリニューアル! 陸上オールウェザーの環境が整う



キャンパス内第2グラウンドが2017年3月にリニューアルしました。全面が土のグラウンドでしたが、陸上競技の全天候型トラック素材を設置。走路は5レーンで、直線は東西が約90m、南北が約50m、曲走路は約110mあります。投てき種目や跳躍種目の練習スペースもあり、LEDライトを採用した照明塔も備えています。2009年の創部時には部員が10人に満たなかった陸上競技部ですが、今では約100人の大所帯。より充実した練習環境で汗を流し、自己を磨き、各大会で上位をめざします。陸上競技部の内田千香子主将(総合健康学科4年)は「練習に打ち込める環境をつくっていただいたからには、陸上競技部も頑張っているんやでということを見せたい。記録で恩返ししたいと思います」と話し、新しく整備された第2グラウンドで日々の練習に励んでいます。